世田谷村日記

石山修武

十二月八日

朝遅い新幹線のぞみで広島へ。昨夜はぐっすり眠れたので上手く時差は解消できたようだ。

午後三時半、広島県立美術館で講演会。

「世界平和と建築のあり方」が演題。山本夏彦が聞いたら、クックックッと笑うだろう堂々たる正義の味方の演題だ。以前の私であればよしてよと言っただろう。今はもう照れずにやる。マイノリティを支持母体とする建築について話した。前広島市長平岡さんのひろしまハウスについての話しもあった。会場はほぼ満員で若い学生の姿が多かった。修了後館内レストランで小パーティー。八時にA3ワークショップの木本君と出る。流川の黒水仙へ。バーテンダー上野誠一の安否をたしかめるため。苦労して探し当てたかいがあって上野さんは元気であった。再会を喜ぶ。名人芸のカクテルをいただき満足。十一時頃ホテルへ。古い友人の健在を確認できて、良い一日となった。

十二月九日

今日は飲まないようにしたい。ミラノ以来飲み続け食べ続きではないか。夕食は佐賀を抜けて博多で一人になって喰べよう。できるかな。

朝十時半頃のひかりで博多へ。雑誌室内の目ざわりデザインで批評したアノ過剰流線型ヤセブタみたいなやつ。日本中に変なモノがはびこってるな。先日ミラノで見た新型路面電車のデザインは良かった。下ぶくれのお多福みたいなスタイルだったが、ミラノの街によく合っていた。日本のこの類の製品デザインはまだまだやってやるぞーと変な力が入り過ぎている感じ。だからこっけいなモノになってしまう。イタリアのデザインは全て良いなどとは言わない。ミラノのカテドラルはフィレンツェのブルネレスキのドウモを意識し過ぎて肩に余計な力が入って、やっぱり変なモノになっている。が、街にとけ込む類の様々な小物のデザインはやっぱりイタリアが上だ。品がある。日本の新幹線デザインはもっと日本的に、いかにもビジネスライクなドライな感じが良かったのではないか。無理にエンターテイメントをやっているのが痛々しい。その痛々しい車輌に運ばれて博多へ。

博多から佐賀へは、かもめ十七号なる更に漫画チックな電車だ。車輌が本気でかもめの顔をしてやがる。床も変な板張りでデザイン過剰。おばはんがイッセイミヤケのシワシワファッション着て酒落のめし、ハウステンボス見学である。でもみんな幸せそうにざわめいている。我等の実力はこんなものなのか。もう俺ワ知らないヨ本当に、とフーテンの寅のオイちゃんの科白がこぼれ出る。

昼過佐賀着。早稲田バウハウス・スクールOB会。森正洋先生をはじめ三〇名程のワークショップ参加者が集まっていた。来年以降の佐賀ワークショップをどのようにするのか、どんな風に持続するのかを九州地区のOB達が皆で考えようという主旨の会である。ありがたい事だ。そんな気持が何がしかの人間の胸の中に生まれていたことが財産だ。今はそれ以上の事は望まない。

夕方佐賀を去り福岡へ。第三共進丸で久し振りに食べて、又も飲んで夜は香椎のアパート泊。伊藤権藤梅木諸君と。学生有本君が酒のサカナになった。今日は日曜日なんだ。

十二月十日

朝スティーブン・ホール棟で眼ざめる。ひげをそりたいと思いオスカー・トウスケ棟にあったコンビニに出掛けてみたが、廃墟になっていた。スティーヴン・ホール棟レム・クールハース棟のいくつかの店ももぬけの空になっていて、うら哀しい感じになっている。中層アパートが建って人口が増えた筈だが、それ位では追いつかなかったか。十時石山棟一〇一号室の宮本さん宅訪問。石山棟に生活している人に初めて会う。きれいに暮していて下さった。ホッとする。

早速住宅建設の相談に入る。自分の設計した建築に暮している人間が新しい建築に移り住みたいという希望を持って、それを又同じ設計者に依頼しようと言うのだから、誠に光栄なことだ。御主人は九大の考古学教授。京大出身との事。京大は日本考古学の中枢だ。宮本さんは考古学者風な、つまりどうやっても下品にはなり得ぬような類の品格の持主であった。中国で紀元前六千年から二千年くらいの墓を発掘しているらしい。私のように騒々しい人間にとっては、求めても得られぬ静かさを体現している人物のようで面白い。奥さんは絵を描かれている、独特な感性の持主でその感性がおもむくままに何かをモノとして望んでいる様なのだが、それが単純なコトではないので、何を考えているのかを正確につかむのがむづかしい。御主人は沈思、奥さんは複雑系か。二面性を持った家になるのかな。杉並の渡辺邸モデルはここでは通用しないようだ。

敷地を見に行く。送っていただいた写真通りの土地で難問はない。良い土地だ。

奥さんが繰り返し言っていた、垂直方向のレベル差で複雑微妙な空間が出来ないかと言うのはとっかかりになるかも知れない。いつもは土地を見て、こんな感じかなのインスピレーションが出現するのだが、今度は出現しない。土地よりも依頼主の個性が強過ぎるからだろう。考古学者とその妻の家。太古の墓、大地、厚い壁と光。静かな、ゆったりとして静かな空間だろうな。四時二〇分の飛行機で東京へ戻る。

今年はアト年末の沖縄行があるけれど、東京にジィッとしていられるな。自分で自分に足かせをかけてでもジィッとしていたい。動き過ぎて体がボーッとしている。夜世田谷地下で打ち合わせ。学生怒鳴っても仕方ネェとは知ってはいてもやはり怒鳴る。いいモノ作る心構えのレベルを知らネェんだこいつらは、いくら教えても解らネェ。

十二月十一日

九時過京急羽田線大鳥居駅待ち合わせ。スタジオボイス取材。少し早く着き過ぎたので駅前のマクドナルドハンバーガーショップでマックを食べる。仰天、コーヒーとビーフハンバーガー合わせて二百八十円。レジで思わずエッと聞き直してしまった。辺りを見廻せば客はチラホラしかも皆オジさんばかり。マクドナルドはみーんなの平日半額セールでハンバーガーを六十五円。チーズバーガーを八十円で売っているのだ。これではそれぞれの町の、それぞれの味は滅亡してしまうだろう。マクドナルドは家庭の台所を消してゆく。マクドナルド&ファストフード連合とコンビニ弁当戦線は日本の台所を消しつつあるのだ。世田谷地下の連中も皆マックとファストフードの奴隷なんだろうな。石山研地下の台所を先ず改革しなくてはならん。冷蔵庫、調理台を持ち込もう。

羽田水門より釣舟に乗って空港近くの堤防へ。回転橋の近くにオンボロ船の小集落があって住人はただ一人。高橋康夫と言う。

犬十三匹くらいと海の上で暮す人。日本に何人もいない水上生活者であろう。昔はいたなそう言えば水上生活者と呼ばれる人達が。この人物と水上の住まいの事は二月号のスタジオボイスを読んでいただこう。日本の辺境は荒んでいた。砂漠だなここは。取材を終えて世田谷へ帰る。朝小船の上から遠くに見た富士山、橋や水門の合い間にコッソリ見えてる富士山は良かった。富士山には月見草はもう似合わない。斜張橋や水門がピッタリだ。太宰治も今生きていたら女と玉川上水で自殺するなんていう俗でセンチメンタルな時間もなく、六十五円のハンバーガー喰って、ケイタイかけまくって借金の算段してただろう。ニューヨークのテロ事件やアフガニスタンでの戦争やパレスチナの戦争を遠くからでも体験してしまうと、タフネスという事と鈍い事が時には似たようなものではあるが、今ではそれが良く生きるための必需品であることを知る。

アフガニスタンではビンラディンが追いつめられている様だ。空爆その他凄まじいまでの物量の攻撃である。